

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	公民館活動事業				事業通番	4439	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	公民館
	項	社会教育費		目	公民館費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	会津美里町公民館組織規則					
事務事業の概要	生涯学習の推進を図るため、対象別(青少年・成人・高齢者等) 課題別などの継続的な講座や講演会などを開催する。また、各生涯学習センターとの連絡調整を図る。					
対象(誰、何を)	町民					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	公民館事業に参加することで、親睦・融和・学習意欲の高揚さらには生きがいの醸成が図られる。					
成果の考え方	各講座等の延べ参加者数					
【成果指標】						単位
A 延べ参加者数						人
B -						-

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	627	1,058			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	41				
一般財源	586	1,058			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	800	800			
B	647	923			
	-	-			
	-	-			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<p>社会教育・生涯学習の推進を図るためニーズに沿った継続的な講座や講演会などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美里楽園(学習会13回:文化祭出展作品講座3コース含む、延べ参加人数650人) ・子どもお琴教室(12回、延べ参加人数81人)・子ども茶道教室(12回、延べ参加人数87人) ・郷土芸能高田甚句太鼓伝承教室(5回、延べ参加人数82人)・いきいき体験事業(参加人数23)人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに沿った学習会を取り入れ、参加者が意義を持って取り組むことにより学習意欲の高揚がみられた。 ・活動を通じて、いろいろな人と交流をすることにより生きがいが見出され、生涯学習の推進が図られた。 ・青少年活動では、異学年他学校の児童との交流により、友達の幅が広がり社会性も向上した。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	<p>(理由)</p> <p>コロナ禍により学習機会が減少したことが町民の学習意欲の低下を招いていることから、町民の学習機会の創出を図り学習意欲の高揚、生涯学習の推進のため、生涯学習の根幹である公民館事業(社会教育)を継続して実施していく必要がある。</p>
コストの方向性	現状維持	<p>(理由)</p> <p>町出前講座メニューの活用やボランティア講師の協力を得る等、創意工夫しながら事業を実施していく。</p>
今後の方向性	現状維持	<p>(理由)</p> <p>点検評価を踏まえながら、課題解決のための講座や町民ニーズに即した事業を実施するなど、年間を通して継続して各対象別に事業を実施していく。</p>

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	生涯学習センター活動事業				事業通番	5260	
					開始年度	平成31年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	宮川生涯学習センター
	項	社会教育費		目	生涯学習センター費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	会津美里町生涯学習センター条例、会津美里町生涯学習センター条例施行規則、会津美里町生涯学習振興事業補助金交付要綱					
事務事業の概要	各生涯学習センターを拠点として生涯学習の推進を図るため、対象・分野別の講座等の開催や地域に根ざした活動を展開する。 また、文化活動として、高田・本郷・新鶴地域においてそれぞれ特色のある文化祭を開催し、文化団体が主体的になり個人の方にも日頃の成果等を発表する場を設け、参加者と鑑賞者との自由なふれあい・交流を通して地域の文化や教育の発展向上を図る。					
対象（誰、何を）	町民					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	<ul style="list-style-type: none"> 各生涯学習センターでの各種講座やスポーツ大会等に参加することで、積極的に生涯学習活動ができるようになり、生涯学習センターの利用促進が図られる。 文化祭の開催により、展示・発表を契機に芸術文化活動への興味関心が高まり、より積極的に活動的な団体及び町民が増える。 					
成果の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座及びスポーツ大会への参加者数を成果として捉え、指標とする。 各文化祭実施における来場者数を成果と捉え、指標とする。 					
【成果指標】						単位
A	生涯学習センター各種講座及びスポーツ大会等への参加者数					人
B	文化祭への来場者数					人

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	2,464	3,400			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	58				
一般財源	2,406	3,400			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2,000	1,500			
	1,287	3,342			
B	1,500	3,000			
	1,038	3,498			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<p>感染防止策を講じながら各生涯学習センターを拠点とし、対象・分野別に各種講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育事業として、青少年・成人・高齢者講座は高田28回412人、宮川29回619人、本郷15回201人、新鶴14回585人、その他会議31回527人で合計2,344人参加があった。社会体育（スポーツ）事業では、11回620人、その他4回378人、合計998人参加があった。 文化祭は芸能フェスティバルを始め高田・本郷・新鶴にて作品展示を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各生涯学習センターにおいて、地域活動推進員会議や各地区実行委員会により意見をいただきながら、感染防止策を踏まえた対象別・分野別の各種講座分野別の各種講座やスポーツ大会を開催し、生涯学習活動の推進が図られた。 文化祭事業はコロナ禍ながらも、実施したことにより参加した文化団体の達成感や意欲が高まり、また町民の芸術文化に触れる機会となった。運営については実行委員会などにより実施期間や内容を検討して開催できた。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 町民が生涯にわたって生き生きと活動できるよう、積極的に学べる生涯学習の機会を創出していく必要がある。
コストの方向性	現状維持	(理由) 各生涯学習センターで実施しているセンター事業において、内容が類似している事業については、合同事業として再編するなど、コスト削減にも配慮した創意工夫した事業を展開する。
今後の方向性	現状維持	(理由) 事業の有効性を精査しながら、地域特性を活かした事業を展開し、町民自ら積極的に参加できる生涯学習の機会を創出していく。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	生涯学習振興事業				事業通番	5271	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯学習係
	項	社会教育費		目	社会教育総務費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	民法、教育基本法、児童福祉法					
事務事業の概要	家庭教育・青少年教育事業を推進するため、成人式や各種講座等の事業実施、関連団体への補助金交付を通して生涯学習の振興を図る。					
対象（誰、何を）	A保護者 B新成人					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	A家庭教育の理解が深まる。 B健全育成が図られる。					
成果の考え方	A家庭教育の重要性を考えることで、子どもたちの健全育成が図れる。 B大人としての自覚が芽生え、地域の健全育成が図れる。					
【成果指標】						単位
A 家庭教育関連事業の参加者数						人
B 成人式の出席率						%

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	826	1,130			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	826	1,130			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	104	95			
B	75	0			
	80	70			
	67	72			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	町内小中学校における就学時健康診断の際に保護者を対象とした家庭教育講演会を開催していたが、こども教育課で講演を実施したため今年度は実施していない。 成人式は今年度より20歳を祝う会とし、1月8日に実施した。また、コロナで中止としていた令和2年度成人式についても8月14日に実施した。 8月6日に中学生と小学生による「少年の主張会津美里大会」を開催した。
成果	・人生の節目である20歳を祝福するとともに、自らが企画する記念事業を行うことにより、思い出に残る事業となった。今年度より成人年齢が引き下げられ、名称が成人式から変更となった。コロナで中止となった令和2年度分についても実施することができ対象者の愛町心を育むことができた。 ・少年の主張会津美里大会では、中学生が日ごろ感じていることを発表し、大人との相互理解を深めることができた。今年度から小学生による発表も加えより子どもたちの意見を主張する機会を設けることができた。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) コロナ禍により外部講師による家庭教育講座を中止していたが、保護者への家庭教育の重要性について理解周知を図っていく。
コストの方向性	縮小	(理由) これまで二十歳を祝う会などにおいては新型コロナウイルス感染症検査キットを準備し、安心して参加していただく感染対策をしたいたが、令和5年5月の5類への移行により当該経費を削減して実施していく。
今後の方向性	効率性改善	(理由) 家庭教育の重要性について引き続き保護者への働きかけが必要であり、また二十歳を祝う会を継続して実施することにより、郷土愛を育む心の醸成を図っていく。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	生涯学習運営事業				事業通番	5287
					開始年度	令和3年度
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	
	項	社会教育費		目	社会教育総務費	
				担当係名	生涯学習係	
				重点プロジェクト		

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	社会教育法
事務事業の概要	町の生涯学習・社会教育に関わる施策について、会議・審査会にて審議する。
対象（誰、何を）	生涯学習推進委員会委員 社会教育委員
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	町の施策に対して指導・助言を行う。
成果の考え方	町の生涯学習・社会教育事業の運営に活かす。
【成果指標】	単位
A 生涯学習推進委員会	回
B 社会教育委員の会議	回

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	119	3,443			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	119	3,443			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2	2			
B	2	2			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進委員会と社会教育委員会の会議をそれぞれ2回開催した。 利用者の利便性向上や施設の効率的な運営のため、生涯学習施設(体育施設や学校開放施設含む。生涯学習センター分館除く。)の施設利用予約システムを導入するとともに、利用申請等ルールの一統化を図った。
成果	生涯学習推進委員会では、令和5年度生涯学習の概要（生涯学習の基本目標）、会津美里町郷土資料館条例の制定、会津美里町生涯学習センター条例の改正について審議していただいた。社会教育委員の会議では、家庭教育支援の在り方検討として、家庭教育支援に係るアンケート結果を基に、今後の家庭教育支援の進め方について検討した。また、施設利用予約システムの導入により、自宅パソコンやスマートフォンにより施設の利用状況確認や利用申請ができるようになり利便性向上に繋がった。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 各委員からいただいた意見を踏まえ、生涯学習事業の充実に務めていくとともに、施設予約システムの適正な運営により利用者の利便性向上や施設の効率的活用が図られる。
コストの方向性	現状維持	(理由) 令和4年度に導入した施設予約システムについては、利用者の利便性向上に繋がっているものの、運営側においては事務量が増加しており、今後一定程度の改良が必要となっている。
今後の方向性	現状維持	(理由) 町民の代表である生涯学習推進委員や社会教育委員から生涯学習重点目標や各事業への意見をいただき、それを踏まえた事業に繋げていくとともに、施設予約システムについて改善すべき事項について精査し、さらなる利便性向上に努めていく。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	図書館管理運営事業				事業通番	15575	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	公民館
	項	社会教育費		目	図書館費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	図書館法、会津美里町図書館条例、会津美里町図書館条例施行規則					
事務事業の概要	図書館法、図書館条例に基づき住民のための図書館運営に努め、蔵書整備、図書資料の貸出しや読書相談、イベント等を通じて利用の拡大を図り、誰もが気軽に利用ができ、親しまれる施設「町民みんなの本棚」を目指し、「学びの場」、「知の情報拠点」だけでなく、図書館を通じて人と人とがつながり、集い、交流する場として町民の豊かな暮らしを支えることができるよう、様々なサービスを提供し、円滑な図書館管理運営を行う。					
対象（誰、何を）	町民					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	求める図書資料が提供できる。また読書推進が図られる。					
成果の考え方	町民ニーズに即した図書等を購入し蔵書の整備を図ることにより町民の読書推進が図られると考える。よって、図書館蔵書である図書資料数をAの指標を設定し、読書推進の指標として貸出冊数をBの指標を設定する。					
【成果指標】						単位
A 図書資料						冊
B 貸出冊数						冊

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	13,462	10,972			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他		2			
一般財源	13,462	10,970			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	33,000	34,000			
	35,141	37,617			
B	40,000	40,500			
	39,524	40,160			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	読書活動の推進のため、各種イベント、企画展示等を実施した。 ・図書館イベントの開催：映画会、お話し会、クリスマス会、ブックカフェ、アクセサリーづくり、野菜づくり講習会 ・図書展示：時間・時計の本、「飛ぶほん」、「アートを楽しむ秋」、「ありがとう」を伝えよう、等の図書展示 ・図書館だより発行【16回（含む：子ども向け4回）】
成果	・貸出冊数について、新型コロナウイルス禍で沈滞状況にあったが、目標達成率99%に及んだ。 ・高校生を含めた地域住民が交流し、地域の活性化につなげる図書館イベント事業を実施することができた。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	(理由) 図書館が中心となって生涯学習センターや学校と連携し、子どもの読書活動の推進を図るとともに図書に関連した講演会等イベントを実施し、町民の読書推進を図り豊かな本のある暮らし充実に向けていく必要がある。
コストの方向性	現状維持	(理由) 開館当初の図書館規模3万冊を達成したが、生涯学習センター図書室と併せて蔵書整備計画に基づき、継続して整備していく必要がある。
今後の方向性	生産性改善	(理由) 時節に合わせた企画展示や新たに「英語多読」事業を展開し、蔵書内容の充実を図りながらさらなる図書館の意義向上に努めていく。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	生涯学習センター施設管理事業				事業通番	15771	
					開始年度	平成31年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	宮川生涯学習センター
	項	社会教育費		目	生涯学習センター費	重点プロジェクト	該当

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	会津美里町生涯学習センター条例、会津美里町生涯学習センター施行規則					
事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度4月から新公民館体制により、小学校区ごとに生涯学習センターを設置。 高田地域の公民館においては、センターの分館に位置付けられており、各地区（赤沢・藤川・旭・尾岐・東尾岐）の管理運営を行政区区長等に移行し、廃止の選択も含め検討していく。 生涯学習センター施設設備の整備充実を図ることにより、当該学習センターの利用促進と生涯学習の振興を目指す。 					
対象（誰、何を）	町民（利用者）					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	安全・安心に活動できている。					
成果の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 町民が安全で安心に活動できるよう適正な施設管理をすることにより、生涯学習センターを地域活動の拠点として、町民自ら学習活動をお行い利用促進が図られる。 赤沢、旭、藤川、尾岐、東尾岐分館廃止や体育場の整理計画について町民説明会を実施し、今年度中に区長会へ分館譲渡等要望を含め結論を求めていく。 各センター施設（体育場・運動場も含む）の利用者数を成果として捉え、指標とする。 					
【成果指標】						単位
A	生涯学習センターの利用者数					人
B	-					-

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	32,955	291,717			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	477	356			
一般財源	32,478	291,361			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	22,000	40,000			
B	21,759	22,483			
	-	-			
	-	-			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 各センター施設（体育場、運動場含む）の適正な維持管理のため、修繕等を実施し町民が安全に活動できるよう適正管理に努めた。 高田・宮川地域生涯学習センター分館の廃止にかかる町民懇談会を11月9日と10日に開催し、12月各区長へ建物譲渡の照会文書を送付し3月中の回答を求めた。 本郷生涯学習センターの本郷庁舎への移転は計画通り、来年度の12月に完了できるよう進めている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 町民の生涯学習拠点として、安心安全に活動できるよう生涯学習振興が図られた。 分館廃止について、住民の理解を求めるとの町民懇談会を開催することができた。その後、区長へ建物譲渡の意向についてアンケートを送付したものの、地区総会の都合により全ての回答は得られていない。 本郷生涯学習センターの移転については、本郷地域町民への周知が図られ、利用団体や町民への理解が得られた。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 本郷生涯学習センターの本郷庁舎への移転によるセンター機能の拡充と、分館廃止に伴う分館機能を維持するための適正管理が必要となる。
コストの方向性	縮小	(理由) 令和5年度をもって本郷生涯学習センター改修工事は終了し、令和6年1月の本郷庁舎への移転により、大半の施設管理は支所管理となるためコスト削減となる。また、分館廃止により施設にかかる維持管理費は縮減できる。
今後の方向性	効率性改善	(理由) 分館廃止により建物の解体等はあるものの、全体的な施設管理経費の縮減が図られる。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	複合文化施設運営管理事業				事業通番	15851	
					開始年度	平成31年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	生涯学習係
	項	社会教育費		目	公民館費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	会津美里町複合文化施設条例、会津美里町複合文化施設条例施行規則、会津美里町複合文化施設管理規則、会津美里町公民館条例、会津美里町公民館条例施行規則、会津美里町公民館管理規則					
事務事業の概要	複合文化施設の施設管理、設備整備を図り、複合文化施設を活用した事業を実施し、施設の利用促進と生涯学習の振興及び芸術文化の振興を図る。					
対象（誰、何を）	施設利用者					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	複合文化施設が町民の交流の場となり、生涯学習活動の拠点として活用され、また芸術文化に触れることのできる場となり、多くの方に利用されている。					
成果の考え方	「庁舎兼複合文化施設建設基本構想」の基本コンセプトの一つ「町民の学習活動や地域文化創造の交流拠点となる施設」「多くの町民が日常的に集い、親しみやすく、利用しやすい施設」が掲げられており、令和元年5月に会津美里町複合文化施設が開設された。開設後の利用状況を把握することにより、交流の拠点としての施設の適正管理に務めるものである。					
【成果指標】						単位
A 利用延べ人数						人
B -						-

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	10,465	111,853			
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	457	1,102			
一般財源	10,008	110,751			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	17,000	25,000			
	23,913	23,044			
B	-	-			
	-	-			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と共催したじげんホールでの映画会等のイベントによりホールの利活用促進を図った。 ・国の公共ホール音楽活性化事業を活用したバイオリンコンサートを開催し、ホール活性化と音楽による芸術文化での地域づくりを図った。(コンサート来場者：町民等178人、アクティビティ：町内中学生114名) ・社会教育関係団体等の活動拠点として安全に活動できるよう適正管理に務め、地域住民等の交流の場として利用しやすい環境整備に努めた。また、公共施設長寿命化計画に基づき、旧会津美里町公民館及び分室の解体工事を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体活動の活性化が図られた。 ・談話室やフリースペースの開放により、幅広い年齢層の町民が交流の場として利用する機会が増え、また多くの学生が利用し学習意欲向上に繋がっている。 ・ホールの音響・照明スタッフの協力により、設備を十分に活用したイベントが開催できたため、イベント自体の成果が向上し高評価を得た。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 複合文化施設を拠点に生涯学習事業を展開するとともに、町内外にじげんホールの存在は周知され、各種文化活動やイベント実施のための利用促進が図られている。
コストの方向性	縮小	(理由) 令和4年度は旧公民館等の解体工事を実施するとともに跡地利用の方向性について検討を行った。複合文化施設運営については引き続き適正管理に務めていく。
今後の方向性	効率性改善	(理由) 一部について業務委託を視野に入れながら、複合文化施設のさらなる利用促進が図られるよう、適正管理に務めていく。

事務事業 事後評価シート（令和4年度実施事業）

事務事業名	地域学校協働本部事業				事業通番	17686		
					開始年度	令和3年度		
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--		
	施策No.	5-2	施策名	生涯学習の充実	担当課名	生涯学習課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	生涯学習係
	項	社会教育費		目	社会教育総務費		重点プロジェクト	該当

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	社会教育法、地域学校協働活動推進委員会設置要綱、地域学校協働活動本部設置要綱、地域学校協働活動推進事業実施要領						
事務事業の概要	地域住民や保護者、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働し「学校を核とした地域づくり」を目指す。そのために学校支援事業や放課後子ども教室推進事業などの地域学校協働活動を行う。						
対象（誰、何を）	保護者 児童・生徒 教職員 町民						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	地域学校協働活動に参加する。						
成果の考え方	地域学校協働活動を通して地域と学校の連携・協働を進める。						
【成果指標】							単位
A	地域学校協働活動に参加した児童・生徒						人
B	地域学校協働活動に協力した地域住民						人

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度	6年度	7年度
事業費(千円)	3,519	6,024			
国庫支出金	0				
県支出金	2,319	3,924			
地方債					
その他					
一般財源	1,200	2,100			

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	5,160	5,800			
	4,769	2,902			
B	1,245	1,320			
	877	644			

(3) 活動実績及び成果

活動実績	地域の人材「学校の応援団」を積極的に活用しミシンや書写といった授業支援を行った。また、部活動支援について、2つの部活動支援を増やすことができた。放課後子ども教室では、コロナウイルス感染症の影響により中止することなく、実施することができた。
成果	3中学校区でコミュニティ・スクールがスタートし、併せて3つの地域学校協働本部が設立した。協働本部に配置した推進員により、地域と学校を結び付け、連携・協働を図ることができた。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	(理由) 地域学校協働活動の充実を図るとともに中学校部活の地域移行についての具体的検討をしていく必要がある。
コストの方向性	現状維持	(理由) 令和5年度に地域活動推進員の増を図り、継続して各地域の活動の充実を図っていく。
今後の方向性	生産性改善	(理由) さらなる各学校への支援を行うとともに各地域の活動の充実を図っていく。更なる地域住民の理解を得ながら、多くの住民参加に努めていく。